

環境学委員会・地球惑星科学委員会合同
FE・WCRP合同分科会
第24期・第1回議事要旨

日時 平成29年12月27日(水) 15:00~17:30
会場 日本学術会議2階 大会議室

出席者：東久美子、植松光夫、江守正多*、大手信人*、大政謙次、沖 大幹、春日文子、
蟹江憲史、小森大輔、三枝信子（共同世話人・副委員長：議事録）、齋藤文
紀、佐藤 薫、高薮 縁、谷口真人*、張 勁（幹事：議事録）、中静 透、中島
映至、中村 尚（共同世話人・委員長）、原田尚美、氷見山幸夫、福士謙介、
山形俊男
22名

オブザーバ：榎本浩之、齊藤宏明、谷本浩志*、西岡純、速水祐一、檜山哲哉*、
見延庄士郎*

*スカイプ参加

配付資料

- 資料 1-1 FE・WCRP 合同分科会設置提案書
- 資料 1-2 FE・WCRP 合同分科会委員名簿
- 資料 2-1 CliC 小委員会設置提案書・委員名簿
- 資料 2-2 CLIVAR 小委員会設置提案書・委員名簿
- 資料 2-3 GEWEX 小委員会設置提案書・委員名簿
- 資料 2-4 SPARC 小委員会設置提案書・委員名簿
- 資料 2-5 ESG 小委員会設置提案書・委員名簿
- 資料 2-6 Future Earth Coasts 小委員会設置提案書・委員名簿
- 資料 2-7 GLP 小委員会設置提案書・委員名簿
- 資料 2-8 IGAC 小委員会設置提案書・委員名簿
- 資料 2-9 iLEAPS 小委員会設置提案書・委員名簿
- 資料 2-10 IMBeR 小委員会設置提案書・委員名簿
- 資料 2-11 PAGES 小委員会設置提案書・委員名簿
- 資料 2-12 SOLAS 小委員会設置提案書・委員名簿
- 資料 3-1 特任連携会員推薦候補者名簿
- 資料 4-1 第23期第3回 IWD 分科会議事要旨
- 資料 4-2 第23期の活動総括
- 資料 4-3 「SGDs の達成に向けて」日本学術会議環境学委員会報告
- 資料 4-4-1 第24期「フューチャー・アースの推進と連携に関する委員会」委員
名簿
- 資料 4-4-2 第24期「フューチャー・アースの国際的展開対応分科会」委員名簿

- 資料 4-4-3 「フューチャー・アース日本委員会」発足
- 資料 4-4-4 「フューチャー・アース日本委員会」参加機関一覧
- 資料 4-4-5 「フューチャー・アース日本委員会運営委員会」委員名簿
- 資料 4-5 Future Earth に関する活動抜粋 2017-2018
- 資料 4-6 JpGU Meeting 2018 「FutureEarth-GRPs による地球環境変化研究の統合」
- 追加資料 3-1 特任連携会員推薦候補者名簿（追加）

議事内容

- ・議事に先立ち、中村委員（共同世話人）からの開会の挨拶に続き、本日議事予定の確認がなされた。
- ・中村委員より、FE・WCRP 合同分科会の設置趣旨（資料 1-1）、委員構成（資料 1-2）について説明がなされた後、本日合同分科会の参加者の自己紹介が行われた。

(1) 第 24 期役員決定

- ・委員長：中村委員が推薦され、承認された。
- ・副委員長：中村委員長より三枝委員（共同世話人）が指名され、承認された。
- ・幹事：中村委員長より張委員が指名され、承認された。

(2) 直属小委員会の設置承認について

- ・CLiC：榎本オブザーバー（委員長内定）より CLiC 小委員会（資料 2-1）の趣旨、委員候補に関する説明がなされ、承認された。
- ・CLIVAR：見延オブザーバー（委員長内定）より CLIVAR 小委員会（資料 2-2）の趣旨、委員候補に関する説明がなされ、承認された。
- ・GEWEX：高薮委員（委員長内定）より GEWEX 小委員会（資料 2-3）の趣旨、委員候補に関する説明がなされ、承認された。
- ・SPARC：佐藤委員（委員長内定）より SPARC 小委員会（資料 2-4）の趣旨、委員候補に関する説明がなされ、承認された。なお、2018 年 10 月初旬に京都にて The 6th General Assembly of SPARC (SPARC General Assembly 2018) を開催予定であり、準備を進めている。

中村委員長より以下の付加説明がなされた。

日本学術会議は WCRP に対して拠出金を支出している。その対応窓口が本 FE・WCRP 合同分科会であり、各コアプロジェクトの日本の窓口が、以上 4 つの小委員会である。

- ・ESG：蟹江委員（委員長内定）より ESG 小委員会（資料 2-5）の趣旨、委員候補に関する説明がなされ、承認された。
- ・Future Earth Coasts：速水オブザーバー（委員長内定）より Future Earth Coasts 小委員会（資料 2-6）の趣旨、委員候補に関する説明がなされ、承認された。前身である LOICZ 小委員会に社会科学系の分野を強化して再編された
- ・GLP：氷見山委員より GLP 小委員会（資料 2-7）の趣旨、委員候補に関する説明が

なされ、承認された。GLP Japan Nodal Office は北大に設置されている。委員長には春山委員が内定。

- ・ IGAC : 谷本オブザーバー (委員長内定) より IGAC 小委員会 (資料 2-8) の趣旨、委員候補に関する説明がなされ、承認された。2018 joint 14th iCACGP Symposium and 15th IGAC Science Conference を SPARC General Assembly 2018 の前週となる 2018 年 9 月下旬に高松にて開催予定であり、その準備を進めている。
- ・ iLEAPS : 檜山オブザーバー (委員長内定) の代理で三枝副委員長より、iLEAPS 小委員会 (資料 2-9) の趣旨、委員候補に関する説明がなされ、承認された。
- ・ IMBeR : 齊藤 (宏) オブザーバー (委員長内定) より、IMBeR 小委員会 (資料 2-10) の趣旨、委員候補に関する説明がなされ、承認された。
- ・ PAGES : 齋藤 (文) 委員 (委員長内定) より、PAGES 小委員会 (資料 2-11) の趣旨、委員候補に関する説明がなされ、承認された。
- ・ SOLAS : 西岡オブザーバー (委員長内定) より、SOLAS 小委員会 (資料 2-12) の趣旨、委員候補に関する説明がなされ、承認された。

※決定事項 :

- ・ 今回提案された 12 件の小委員会について、FE・WCRP 合同分科会として設置を承認した。1 月 25 日の学術会議幹事会に小委員会の設置提案書類を提出する。

お知らせ :

- ・ 各小委員会は、日本学術会議幹事会で承認されることにより、第 24 期 FE・WCRP 合同分科会の小委員会 (平成 30 年 1 月 25 日~平成 32 年 9 月 30 日) として正式に発足する。
- ・ 第 1 回小委員会を開催 (メール審議ではなく対面式委員会の開催が必要) し、委員長をはじめとする役員を決定してほしい。
- ・ 小委員会を開催する際には、学術会議事務局から招集する必要がある。このため、小委員会開催の 1 か月前までに (遅くとも半月より少し前には)、開催日時、開催場所、議事次第を学術会議事務局 (宮本さん) に連絡する。
- ・ 小委員会の成立には、過半数の委員の出席が必要 (スカイプ参加を含む)。
- ・ 小委員会には学術会議からの旅費支給はない。
- ・ 多くの小委員会委員が集まりやすい時期・場所で開催してもらえれば良い。
- ・ インターネット会議も可能 (第 1 回以外)。

質疑・討論 :

Q : 開催場所はどこでも良いか (植松)。

A : 学術会議の会議室を利用希望の場合は、事前に学術会議事務局に相談し、空いていれば利用可能である。委員を参集して行う会議を原則としているが、インターネットでの参加も可能である。ただし、学術会議でのインターネット会合は、回線がやや不安定なので注意が必要である (中村、宮本)。

Q : 新たに小委員会の設置希望があった場合の手続きについて (三枝)。

A：申請があった場合、本合同分科会での審議・承認を経て、幹事会にて承認との流れになる（中村）。

Q：Future Earth のKANに関する議論はどの分科会で行うのが適切か（春日）。

A：FE・WCRP 合同分科会と、フューチャー・アースの推進と連携に関する委員会の両方で、今後議論することが必要（中村）。

- ・当分科会は、単なる実務的なとりまとめとしての分科会ではなく、委員が良くコミュニケーションをとることができるように運営することが望ましい。（氷見山）

(3) 特任連携会員の選定について

- ・中村委員長より、特任連携会員の氏名（資料 3-1、資料 3-1（追加））および推薦理由について説明がなされた。

質疑：

- ・特任連携会員の人数はもっと必要であると思う。小委員会が実質的に重要な仕事をしているにもかかわらず、会員・連携会員の人数は限られているため、公開シンポジウムを行う場合には親委員会や他の小委員会から会員・連携会員に参加してもらえるよう協力を依頼しなければならない。当分科会全体で特任連携会員 4～5 名では少ないと感じている。学術会議シンポジウムを開催する予定があるなど、必要性を感じている小委員会においては、もっと多くの特任連携会員を推薦することが望ましい。（氷見山）
- ・第 23 期開始時点では特任連携会員の人数に上限があり、必要であっても認められることが厳しい状況であった。23 期の途中からは、重要な国際連携に関するものは（特任連携会員の推薦を）積極的に進めるべきということになったが、24 期においては、まだ国際委員会が開催されていない状況でもあるので詳細は未定である。小委員会が学術会議でシンポジウムを開催するためには、親委員会から必ず誰か出席しなければならないという課題があることは認識している。（中村）

※決定事項：

- ・分科会として、5 名の特任連携会員について推薦することを承認した。これから順次幹事会にはかるための手続きを行う。1 月の幹事会に推薦できるのは 2 名までであるが、2 月以降の幹事会に追加申請できる見通しである。

(4) 第 24 期の活動方針と関連の国内外の動向について

中村委員長より、第 23 期第 3 回 IWD 分科会議事要旨（資料 4-1）について説明なされ、第 23 期の活動の統括（資料 4-2）を行った。

- ・FE と WCRP を分離するのではなく、合同で扱う体制を崩さない方がよいという考え方にに基づき、IWD 分科会から名前を変更して FE と WCRP の合同分科会を発足させた

という経緯が説明された（中村）。

- ・第23期の活動として、公開シンポジウムを2回、分科会を3回開催した。実質的な活動は、各小委員会が活発に実施した（中村）。
- ・2015年11月15日、政策研究大学院大学にてIGBPの総括としての公開シンポジウム「生命を育む地球環境の変動予測と適応—我が国におけるIGBP25年間の歩み」を開催したほか、IGBP25年総括特集号を国際環境研究協会（和文誌「地球環境」）から出版した。（植松）
- ・2017年7月28日、東京大学生産技術研究所にて公開シンポジウム「Future Earth時代のWCRP」を開催した。前半はWCRPの各コアプロジェクトの活動紹介、後半はFEとどう連携するかについて講演を行い、約100名の参加を得て盛会であった。（中村）
- ・「SGDsの達成に向けて」（資料4-3）について、日本学術会議環境学委員会から報告がされた。（沖）
- ・「フューチャー・アースの推進と連携に関する委員会」（資料4-4-1）について、谷口委員より説明がなされた。委員は当分科会とも重なりが多い。FEについては、当分科会とフューチャー・アースの推進と連携に関する委員会の双方で、どのように議論していくかを話し合うことになる。
- ・フューチャー・アースの推進と連携に関する委員会には、ステークホルダーの方々に入っているのが新しい点である。江守委員より、国際委員会（資料4-4-2）の運営にあわせて追加説明がなされた。
- ・春日委員より資料（4-4-3、4-4-4、4-4-5）に基づき、フューチャー・アース日本委員会について、説明がなされた。「フューチャー・アース日本コンソーシアム」が発展的に解消される形で、「フューチャー・アース日本委員会」が9月15日に発足した。
- ・春日委員が資料（4-4）に基づき、Future Earth に関する活動抜粋2017-2018を紹介した。

質疑・討論：

Q：「フューチャー・アース日本委員会」には学会としても参加できるか？（原田）

A：提案いただければ前向きに検討される。（春日）

- ・谷口委員より、JpGU Meeting 2018にて開催される「Future Earth-GRPsによる地球環境変化研究の統合」というユニオンセッション（資料4-5）を紹介された。当委員会で承認された小委員会の代表の方に連絡し、講演やポスター発表への協力を依頼する予定である。
- ・WCRPの最新動向について：WCRPは次の10年の活動に関するStrategic PlanとImplementation Planを策定し、External Reviewを受ける予定である。現在の4

つのコアプロジェクトの見直しを含む提案が行われる可能性がある。(見延)

- Review に参加している。公表前なので詳細は公表できないが、それほど厳しい内容は書かれていない。マネジメント面での助言が盛り込まれるようである。(春日)
- 10月に台北にて国際科学会議 (ICSU) と国際社会科学学会 (ISSC) の合同総会が開催され、ICSU と ISSC の統合 (International Science Council) が決定した。
- 両者は国からのサポートの受け方が異なるので、今後それをどう調整していくかなどの課題がある。

(5) その他

- 中村委員長より、第23期にはWCRPが中心となって公開シンポジウムを実施したが、24期にはFEを中心とするものを実施してもよいのではないかと提案がなされた。分科会として開催することになるが、複数の小委員会がまとまってリードするようになるとよいかもしれない。可能であれば2018年後半に1回、第24期の終わり頃にもう1回開催できると良い。